

T07a 遠方銀河団と近傍銀河団の ICM 質量について

松本浩典 (理研)、鶴剛 (京大理)、深沢泰司 (東大理)、小山勝二、富田洋 (京大理)、服部誠 (東北大天文)、Hughes, J.P. (Rutgers Univ.)

我々は多数の近傍銀河団、遠方銀河団を「あすか」により観測し、その X 線光度、鉄のアバundance、質量の比較を行なった。温度-光度関係、温度 - 鉄のアバundance関係には $z < 0.6$ で進化の証拠は見られなかった。温度 - 光度関係には $z > 0.6$ でも進化の証拠は見られない。これらは Mushotzky and Loewenstein (1997)、Mushotzky and Sharf (1997) らの結果と consistent である。しかし、 $z \sim 1.0$ の非常に遠方の銀河団および $z \sim 0.6$ 付近の一部の銀河団は、近傍のものに比べて非常にガスの質量が小さいことがわかった。さらに $z \sim 1.0$ の2つの銀河団の鉄の質量はお互いに非常に異なることがわかった。これらの結果は銀河団の進化解明について重要な手がかりを与えるものと思われる。